

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
【部門区分】第2部門第1区分
【発行日】令和5年3月24日(2023.3.24)

【公開番号】特開2021-194580(P2021-194580A)
【公開日】令和3年12月27日(2021.12.27)
【年通号数】公開・登録公報2021-063
【出願番号】特願2020-101836(P2020-101836)
【国際特許分類】

B 0 1 F 27/00(2022.01)

B 0 1 F 35/00(2022.01)

【F I】

B 0 1 F 7/00 A

B 0 1 F 15/00 C

【手続補正書】

【提出日】令和5年3月15日(2023.3.15)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0029

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0029】

以上の如く構成され、バッテリーパック12を装着した攪拌機1において、作業者は、ハンドル6に設けた左グリップ68と右グリップ69とを把持する。よって、攪拌機1は、攪拌シャフト9が下向きに突出する姿勢で支持される。この姿勢が通常の作業姿勢となる。なお、作業者の身長等によっては、攪拌シャフト9が必ずしも真下に向かない場合もあり、例えば、攪拌シャフト9が後傾（上部が後方、下部が前方）していることも想定している。この場合の上下方向は、攪拌シャフト9の伸長方向となる。

作業者が右グリップ69に設けたトリガ71を押し操作すると、スイッチ70がON動作する。すると、スイッチ70のON信号を得た制御回路基板46のマイコンが、モータ4のセンサ回路基板24から得られる検出信号からロータ21の回転位置を取得し、6個のスイッチング素子（MOSFET、IGBT等）をスイッチング動作させることで、ステータ20に三相電流を供給してコイル23へ順番に通電させ、ロータ21を回転させる。ロータ21と共に回転軸25が回転すると、回転軸25の回転は、切替レバー98で選択された高速モードと低速モードとの何れかで減速部7に減速されてスピンドル8に伝わる。よって、シャフト保持部108に接続された攪拌シャフト9がスピンドル8と一体に回転する。攪拌シャフト9と共にブレード10が回転して塗料等の攪拌が可能となる。

ここではボタンカバー73（ロックボタン72）と調整ダイヤル75とがあるので非常に使いやすくなっている。すなわち、ロックボタン72の操作により、トリガ71を操作しなくてもモータ4の回転が維持される状態となる。その後、ペンキなどの粘度により、作業者がモータ4の回転を変えたい場合は、調整ダイヤル75を操作するのみでよい。また、作業が終了した際には、ロックボタン72を操作すれば、モータ4の回転は停止することになり、便利である。

10

20

30

40

50